



ちょっといい話

シリーズ⑧

笠松の和菓子文化と、
それを守り通す心に学ぼう
～ふるさとの名菓を味わい、心意気を実感しよう～

笠松町は文化の薫り高い町だと言われていま
す。その一例として、町内に和菓子屋さんが8軒
もあることです。それは、笠松町の人口からは考
えられないほど多い数です。この小さい町で8軒
もの和菓子屋さんが営業できている大きな理由と
して、次の2つが考えられます。

- 1 寺院の法要や病院のお見舞いなどの需要が
多いこと。
- 2 店主が、伝統の和菓子の味を守っているので、
昔からの根強いファンが多いこと。

その他にも、8軒の和菓子屋さんたちは和気あ
いあい仲がよく、お互いに切磋琢磨されている
ことも忘れてはいけません。

なぜ、ライバル同士の店のはずなのに仲がよい
のでしょうか？笠松菓子組合長の名和秀司さん(伊
住屋本店)は、「8軒とも同じぐらいの規模の店な
ので、話も気も合うから」と、言ってみえました。

450年の伝統のある銘菓「しこらん」が製造困
難になった時に、菓子組合が協力して復活させる

ことが出来た
のも、きっと組
合員の仲が
よかったから
なのでしょう。

人口減少
の時代を迎
えて、組合は
どんな工夫

をして危機を乗り越えようとしているのでしょ
う？名和さんは、「時代に合った味付けを考
えています。自分が本当に食べたい菓子を作るためには、
和菓子と洋菓子のドッキングも考えています」と
言ってみえました。今後、どんなお菓子が生み出
されるか楽しみです。



笠松菓子組合長の名和さん

身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、
FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。
☎388-3926 FAX388-3233
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かきまつの民話「昔むかし」

ご神木のお泊り①

みんな、お伊勢さんを知
つとるかな。そうや…。
三重県の伊勢にある、天
照大神をお祭りした、あの
名高いお宮さんや。そのお
伊勢さんは二十一年に一ぺん
ずつ造り直すんやが、それ
にはたくさんのお檜がいった
んや。
木曾の山で、きれいな水
と空気を吸って、すくすく
とまっすぐに育った檜が使
われたんや。そんな大きな
木を昔はどうやって運んだ
かて。ええことに気がつい
たな。それはな、途中いか
だに組んで、木曾川を下ら
せたんじや。そうすりや、
しぜんに、伊勢湾にたどり
つくじやろうが。

ご神木
は十四本。
信州湯舟
沢山で伐採された良木から
選ばぬかれた。
文久二年の十月二十六
日、恵那郡落合村において
木曾方役人と伊勢神宮の立
合いの上、二本いかだに組
み、錦織湊に送った。
十一月十二日、錦織湊で
は舟一隻に一本ずつご神木
を藤で結びつけ「伊勢御
清流を出発した。
ご神木は一日に一度、途
中の港でお休みにになり、
夜、次の村の港でお泊りに
なっていられるのであつ
た。そして、十一月の十四
日、犬山にお泊りになったご
神木は、田城寺の港に向けて
出発した。

(つづく)